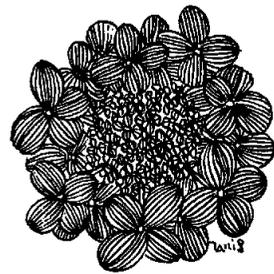


自然保護団体の 果たすべき役割



北海道大学自然保護研究会

今日の日本では、観光事業・工場建設・宅地造成・農業などが一日も休むことなく自然を破壊しつづけています。そして、これらの自然破壊が、私達人間にいかなる悪影響を与えるかということは、ここに述べるまでもなく、みなさんにご存知のことと思います。

しかし日本政府は、自然破壊の持つ重要な意味を知らず、もしくは知っていても、彼らの企業の営利優先といった、一般国民公共の利益を二の次にした政策によって、自然を保護しようとしなればかりか、逆に、自然を破壊する立場をとっています。これはなにも政府にだけあてはまることではなく、地方自治体にもいえることです。市民からの税金を工場誘致のために供出し、一般市民を公害の被害者にしています。

しかし工場を誘致した結果、どうなるのでしょうか。この工場建設によって利益のあがるのは、一部の関連会社と当の工場ぐらいです。あとは、その地方財政が少しばかり豊かになるだけです。ところが、その代償として大気汚染・水汚染などの公害が生じてくるのです。一般市民は工場誘致によって、ほとんどなんの利益をも得ず、しかもその際に、税金を供出し、その代わりに公害という迷惑なものをもら

うわけです。そして、地域開発という美麗な名によって、泣き寝入りを強いられているのです。

.....

これらの公害や、その他の自然破壊は、一部の学者や一部の自然愛好家の力だけでは、今日の大規模な自然破壊の魔の手から自然を護ってゆくことはできません。自然破壊を阻止するためには、いまや広範な国民的な自然保護運動が、絶対的必要条件なのです。その国民的自然保護運動への布石となることが、日本自然保護協会・北海道自然保護協会・その他の自然保護団体に与えられた大きな使命なのではないでしょうか。その中には、私達北大自然保護研究会も当然ふくまれていると思います。

そして、私達のサークル活動が今日のように活発になってきた理由の一つには、会員各自がこれらの使命感を抱き、主体的にサークル活動にとり組んできたことがあげられます。私達の活動は、この使命感に基づいてまず自然破壊の現状を認識し、その認識のうえに立って、その現状の裏に隠された本質を見極め、その自然破壊に對してどのように対応するのが人間にとって最良であるかを研究します。それを機関誌、あるいは新聞誌上などにおいて、広く市民に伝え、もし必要があれば、自然保護キャンペーンを興し、署名運動にまで発展させてゆくつもりです。

つい最近、中止が決定された大雪山観光道路問題も、もし中止決定が下されなければ、大雪山道路建設反対キャンペーンと反対署名運動をくり広げるはずでした。私達は、これまでに上述の大雪山観光道路問題のほかに、豊平峡ダム建設問題・知床岬先端部の開放問題、恵庭岳オリシピック問題・旭山公園などの問題をとりあげてきました。

しかし、これらを反省しますと、私達の活動は、すべて何か問題が生じてからあわててその問題に着手している感が強く、つねに後手後手に回っていました。これは非常に消極的で、保守的な自然保護といわざるを得ません。もちろん、自然破壊の危険が生じた場合、すぐそれに対処しなければなりません。そのほかに、危険の生じる前に、重要な自然について将来に破壊の危険すら生じないような環境を作っておく必要があると思われま

私達も、今後はこのような方向で自然保護にとり組み、まず、道内の国立公園について、毎年一カ所ずつ、ある国立公園の自然科学的重要性、その国立公園の観光がその地方の産業全体に占めている比率、そしてその国立公園の理想像など、私達ができる限りで研究してゆきたいと思っています。

また、自然保護の分野は多方面にわたり、しかも、その一つ一つが他の社会現象と複雑に入り組んでいて、問題を非常に難しいものになっています。いままでの私達は、観光面に関する問題のみを追いつづけ、そのゆえに市民との接触が良くなされていなかったようです。今後は市民の立場から、公害・農業といった現代資本主義の矛盾から発生した文明のガンに深くメスを入れ、公害・農業禍のまったく無い社会を目指し、独自の運動を展開してゆきたいと思っています。

また、私達は単なる学生であって、学者ではありません。したがって、科学的な調査研究をすることは不可能であります。しかし、現在の日本においては、大局的な見地から自然保護を研究している学者は一人もいないようです。現在は植物学・動物学、あるいは地質学などの学者の方が自然保護の必要性を訴えています。いずれも、自分の専門の分野からのみの発言で、そのゆえに、訴える力が弱すぎるような感じがします。そこで私達は、学術的な調査・研究こそできませんが、学生という立場を大いに生かし、私達の手でいろいろな研究データを集め、それを私達なりにまとめて世論に対して自然保護の必要性を訴えかけてゆこうと思います。

私達のサークルは、結成されて満四年、会員数こそ六十名を越す北大文化サークルの中でも有数の大世帯になりましたが、その活動は、まだまだ満足ゆくものではありません。しかし、日々の研究・討論をかさね、市民への広報活動をつづけていく中で、日本の自然保護運動を国民運動へと発展させていく過程で、重要な役割を演ずることのできる実力を養成してゆこうと思います。

また、私達は道自然保護協会について、あまり多くのことは知りませんが、現在の当協会の在り方について、大きな疑問を感じています。特に大きな疑問は、その会員構成からくるものですが、当協会の会員を見ると、本道の政界・財界の有名人・北大の諸先生方がズラリと顔を並べ、いわゆる一般市民らしき人はほんの少ししかいないようです。

そして協会の管理・運営は北大の諸先生方によってなされているようですが、政界・財界の会員の方々は、ほとんど名目的な、免罪符的な会員なのではないでしょうか。またこのことは、日本自然保護協会についても同じことがいえますが、一般市民の会員は、ただ定期的に刊行される会誌と報告書などを読むだけの会員で、きわめて受身的な感じ です。

道協会は本来、有名人同志の茶話会でも、先生方に研究材料としての自然地を確保するための会ではなく、市民のために自然保護を推進していく会であろうと思います。しかし、現実の道協会は、市民不在の自然保護協会といわざるを得ません。自然保護運動を、もつと広範にくり広げるためには、多数の市民が必要であり、名目的な会員である有名人は、まったく不必要です。そして、大きな市民運動としての自然保護運動が展開されるようになって、はじめて政策としての自然保護が強く打ち出されるものと思われ ます。

.....

そこで、道自然保護協会に次のことを提言させていただきます。

まず、協会の体質改善を図り、あくまでも市民中心の協会にしていきたいと思 います。これには少々時間を必要としますが、永い目で見れば、自然保護運動にとつて当然必要なことではないでしょうか。そして、多数の市民を集め、市民が中心となつて運営に当り、北大の有能な諸先生方が傍からこれをバックアップして、市民や私達学生ではできない科学的・学術的研究について、全面的に協力し、道協会が日本自然保護運動の中で、市民運動の先駆者となつてほしいものです。それが、真の自然保護協会の在り方ではないでしょうか。そのためには、私達も微力ではありますが、できる限りの協力を惜しまないつもりです。日本に、一日も早く大きな市民的 自然保護運動が展開されるために、ぜひとも考えていただきたいと思 います。

現在の日本において自然保護団体の果たさねばならない任務は、自然保護運動を一日も早く市民運動に成長させていくことではないでしょうか。